

【会議名：第3回糸魚川市環境審議会】

# 会 議 録

作成日 平成24年2月17日

日	平成24年2月16日(木)	時間	13:30 ~ 15:40	場所	市民会館3階 会議室
件名	議題 糸魚川市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定について （公開）				
出席者	【出席者】 10人 佐藤(芳)委員、鷺澤委員、磯貝委員、小笠原委員、小野委員、小林委員、清水委員、田村委員、山岸委員、山本委員				
	【欠席者】 5人 岩崎委員、恩田委員、佐藤(晋)委員、杉野委員、吉田委員				
傍聴者	【事務局】 吉岡市民部長、渡辺環境生活課長、渡辺環境係長、福光主査、井上主任主事				
	傍聴者定員	人	傍聴者数	1人	

## 会議要旨

<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 糸魚川市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定方針について</p> <p>事務局より資料に基づき、「施策の体系」「施策の方向」（21頁～31頁）について説明</p> <p>《主な質疑・意見》</p> <p>【委員】提示された資料は叩き台であり、委員の皆さんからの意見をいただき、全体の集約になると解釈している。質問、意見、修正等どんなことでも結構なのでよりよい計画となるよう発言いただきたい。</p> <p>【委員】二酸化炭素の削減と吸収（温暖化を引き起こす原因）に対する施策はあるが、温暖化によって生じる影響（気象変化、生態系変化）への施策（監視や生態系の把握、現実においている影響に対する対策等）も必要なのではないか。</p> <p>【事務局】そのような視点での施策も加えていきたい。</p> <p>【委員】整備された森林と整備されていない森林とでは、二酸化炭素吸収元としての違いがあるのか。</p> <p>【事務局】数値的な違いはないが、行政として環境保全と地域（産業）活性、水保全など総合的に捉え、人が手を加えることで資源の恵みをより増していくような施策をしなければならないと考える。</p> <p>【委員】個人所有の森林はどの程度を占めているのか。森林整備事業を進めるにあたり妨げにならないか。</p>
--

【事務局】 オフセット・クレジット制度などもあるが、民間の方が損をしない事業が展開できればと考えている。

【委員】 環境保全の意識、温暖化への対策等市民全体に広めるためには、もっともっと頑張らなければならない。

【委員】 この計画において糸魚川市の特徴はどこにあるのか。

【事務局】 「エネルギーの地産地消」の表記等で恵まれた糸魚川の資源を強調していきたい。

【委員】 企業等に積極的に働きかけ、事業を起こすくらいに考えていただきたい。

市内の森林資源を活用すれば、ひとつの事業が起こせるのではないか。発電技術もある。雇用の確保も可能となるのではないか。

【委員】 間伐材がコスト的に採算性が合えば、燃料として十分考えられる。

そういう面からみて、里山（作業道等）の整備も大切ではないか。

【事務局】 少なからず経済原理から脱却して、蓄積された民間の技術を生かし行政が中心となって今ある資源を活用していかなければならない。

【委員】 利潤の追求をしていては、達成できない部分もある。

【委員】 温泉も火山もあるが、市内での地熱発電の可能性は？ ジオパークと相まって目玉となるのでは？

【事務局】 1万KWを超える大規模発電は難しいとの調査結果がある。

それ以下の発電能力であれば可能性はあるといわれている。またバイナリー方式の小規模発電に対する調査も県により行われている。まだ実証実験の段階ではあるが、採算性の問題が解消できれば行政も一緒になってい支援していきたいと考えている。

【委員】 学校給食地場産農作物使用割合の計算方法は？

【事務局】 総重量に占める割合で計算している。

地元米を使っているが、数値資料があるのは農作物だけであり、数値に反映されていない。

【委員】 地場産食材の利用割合が伸びていないのではないか。

【事務局】 市内に対応できる栽培農家がないのが実情である。

【委員】 大和川小学校では、地元農家からの食材提供や生産者との交流も行われていると聞いているが、他校では？

【事務局】 他校でも実施されている。ただし必要な時に必要なだけ計画的に納品できる農家がない。

【委員】 給食の献立を臨機応変に変えるくらいの方法でないとだめなのでは。

【委員】 需要と供給、保護者の理解が必要であり、たいへん難しい。

【委員】 漁協としての取組として、学校食材として一時確保するため保管庫を整備している。

現在市内ほとんどの幼、保、学校と提携している。

学校給食を始めとして老人施設等で地産地消を進めたいと考えている。

【委員】 廃棄物部門の項目は、廃棄物減量等推進審議会と協議し、整合性を図っていただきたい。

【委員】 工場の冷却水の活用（融雪等）も考えられるのでは。

【委員】 部門別の体系がわかりづらい、体系的な整理が必要。

温室効果ガスの排出量を算定する体系と実際の取組の体系にずれが生じているのが原因であり、工夫が必要。

【事務局】 温室効果ガスの排出量を算定し目標を定めるため、現状の案としてある。

【委員】 サマータイムは現実的ではない。実現性がなければ表記を和らげた方がよいのでは。

【委員】 ノーマイカーデーの職員の反応は？

職員を2班に分けて、相乗りを推進してはどうか。

【事務局】 公共交通機関が発達しているとはいえ、難しいのが現状である。相乗りも検討したい。今年度、市内2事業所に対してノーマイカーデーの呼びかけも行った。

【委員】 公共交通機関を活用すれば、仕事の能率も上がり、出会いの場もできる。

【委員】 具体的になりすぎている表記と、抽象的な表記とが混在しているので整合を図っていただきたい。実施している取組から施策を組み立てるのも方法ではないか。

【委員】 「地域や市民に花の苗を提供する」では、二酸化炭素の吸収対策に対する効果が少ないので、樹木の方が効果があるのではないか。

【委員】 計画をつくるときに、具体的に表記したために応用を欠く計画となってしまうように、いくらか幅を持たせた表記として、現在の取組も生かし、また新たな取組も生まれ、計画の完成度が高まると思う。

【委員】 森林の変化による海への影響は？

【委員】 直接影響があるかは不確定である。温暖化の影響による水温の変化で魚や海藻の生息域が変わることはある。

#### 4 その他

【事務局】 次回日程について報告：3月22日（木）13：30～

#### 5 閉会 鷺澤副会長